

図 6. 虐待群における各症状カテゴリーの出現率の推移

項目	群		第1回調査	第2回調査	第3回調査
IES-R 得点	ネグレクトのみ群	例数	7	4	2
		平均値	6.7	11.8	0.0
		標準偏差	5.7	18.4	0.0
	虐待群	例数	16	6	2
		平均値	19.4	2.5	3.5
		標準偏差	20.5	2.0	0.7
	合計	例数	23	10	4
		平均値	15.6	6.2	1.8
		標準偏差	18.2	11.8	2.1
IES-R による PTSD 診断	ネグレクトのみ群		0例 (0%)	1例 (25%)	0例 (0%)
	虐待群	診断された事例数	6例 (37.5%)	0例 (0%)	0例 (0%)
	合計	と割合	6例 (26.1%)	0例 (0%)	0例 (0%)
面接による PTSD 診断	ネグレクトのみ群		0例 (0%)	0例 (0%)	0例 (0%)
	虐待群	診断された事例数	6例 (37.5%)	0例 (0%)	0例 (0%)
	合計	と割合	6例 (26.1%)	0例 (0%)	0例 (0%)

表 2. PTSDの推移

	虐待						ネグレクト(明確で重度なもの)							
	なし(N=12)			あり(N=11)			なし(N=8)			あり(N=15)				
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	F値	有意確率	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	F値	有意確率		
全体	1.3	1.7	0.3	0.5	2.3	2.0	11.10	0.00	0.6	0.7	1.6	2.0	1.81	0.19
PTSD														
幼児トラウマ尺度得点	24.3	8.1	21.0	5.1	27.9	9.4	4.91	0.04	20.1	6.3	26.5	8.3	3.65	0.07
アタッチメント障害	16.3	4.2	15.7	3.5	17.0	4.9	0.57	0.46	15.1	5.4	16.9	3.4	0.97	0.34
情緒的撤退・内閉	11.0	3.6	10.1	2.4	12.0	4.4	1.71	0.21	11.0	2.1	11.0	4.2	0.00	1.00
養育者に対する警戒・過剰応諾	7.4	2.7	5.9	1.6	9.1	2.7	11.93	0.00	5.5	1.2	8.5	2.7	8.48	0.01
無差別的友好態度	6.3	2.1	6.2	2.0	6.4	2.3	0.05	0.83	7.8	1.4	5.5	2.0	8.02	0.01
危険行動														
行動抑制性粘着														

性愛着	19.3	6.4	17.9	6.1	20.9	6.6	1.27	0.27	14.9	4.8	21.7	5.9	7.88	0.01
統制的態度														
保育士に対するアタッチメントの安定性														
AQSスコア	81.3	10.5	84.1	10.0	78.2	10.6	1.90	0.18	86.0	7.3	78.7	11.2	2.71	0.11
CBCL(T得点)														
総得点	57.0	9.3	52.5	6.5	62.0	9.6	7.81	0.01	52.4	6.7	59.5	9.7	3.42	0.08
内向得点	53.3	7.6	49.9	5.6	56.9	8.1	5.88	0.02	51.3	6.1	54.3	8.3	0.84	0.37
外向得点	56.6	10.8	52.1	8.4	61.5	11.4	5.10	0.03	50.4	8.4	59.9	10.8	4.68	0.04
ひきこもり	58.3	6.8	55.8	5.9	61.1	6.9	4.00	0.06	56.9	6.6	59.1	7.0	0.53	0.48
身体的訴え	53.2	5.7	52.0	4.2	54.5	6.9	1.16	0.29	51.9	2.6	53.9	6.8	0.68	0.42
不安/抑鬱	52.8	4.3	51.2	1.9	54.5	5.5	4.04	0.06	52.1	2.9	53.1	4.9	0.28	0.60
社会性の障害	56.7	7.9	53.8	4.2	59.8	9.9	3.69	0.07	53.4	4.4	58.5	8.9	2.29	0.15
思考の問題	56.3	10.3	52.7	5.9	60.2	12.7	3.40	0.08	54.6	8.7	57.1	11.2	0.30	0.59
注意の問題	56.2	9.1	51.6	3.9	61.3	10.7	8.70	0.01	53.1	8.0	57.9	9.5	1.43	0.25
非行的行動	57.5	7.1	55.5	4.8	59.7	8.7	2.13	0.16	53.8	4.8	59.5	7.4	3.91	0.06
攻撃行動	57.5	9.1	53.9	7.2	61.4	9.7	4.46	0.05	52.9	7.0	59.9	9.3	3.51	0.08

注)統計的検定は、ANOVAによる。+: P<0.10, \*: P<0.05, \*\*: P<0.01, \*\*\*: P<0.001

表 3. 児童養護施設の未就学児童の症状・問題行動と虐待・ネグレクトの関係

	全体		虐待(明確で重度なもの) 有無による比較			
			なし(N=12)		あり(N=11)	
	度数	%	度数	%	度数	%
(1) 単調な遊びを、あまり楽しめない様子で、何度も繰り返すことがある	1	4.3	0	0.0	1	11.1
* (1)の質問で1か2を選んだ人のみ回答ください。 その遊びは、以前に体験したトラウマに関連しているように思われる	(1)	(4.3)	(0)	(0.0)	(1)	(11.1)
(2) 何度も繰り返し同じ出来事に関係する話や質問をする	5	21.7	2	14.3	3	33.3
* (2)の質問で1か2を選んだ人のみ回答ください。 その繰り返す話は、以前に体験したトラウマに関連しているように思われる	(1)	(4.3)	(0)	(0.0)	(1)	(11.1)
(3) 何かのきっかけで、急に身体反応(発汗や動悸や息切れなど)を伴うような強い不快感(脅えや恐怖など)を示すことがある	1	4.3	0	0.0	1	11.1
* (3)の質問で1か2を選んだ人のみ回答ください。 そうした子どもの反応のきっかけは、子どもが以前に受けたトラウマが関係しているように思われる	(0)	(0.0)	(0)	(0.0)	(0)	(0.0)
(4) 唐突に、場にそぐわない、意味不明の行動をとりつかれたように行うことがある	2	8.7	0	0.0	2	22.2
* (4)の質問で1か2を選んだ人のみ回答ください。 そうした行動は、子どもが以前のトラウマ体験を再現しているように思える	(2)	(8.7)	(0)	(0.0)	(2)	(22.2)
(5) 急に、表情が硬くなったり、無表情になることがある	6	26.1	3	21.4	3	33.3
* (5)の質問で1か2を選んだ人のみ回答ください。 それは子どもが以前に体験したトラウマに関連しているように思える	(3)	(13.0)	(1)	(7.1)	(2)	(22.2)

(6) 親に会う時に強くおびえることがある	4	17.4	1	7.1	3	33.3
(7) 他の同年代の子どもに比べて、感情表現が乏しい	4	17.4	0	0.0	4	44.4 *
(8) 他の子どもがすすんで参加するような新しい活動に興味を持ちにくい	7	30.4	4	28.6	3	33.3
(9) 特定の場所や人や物をいやがったり、避ける様子がある	5	21.7	3	21.4	2	22.2
(10) 親に会った時に、感情表現や活動性が乏しくなる	6	26.1	2	14.3	4	44.4 +
(11) 一度できるようなこと(トイレのしつけや言葉など)がまたできなくなることがあった。	7	30.4	3	21.4	4	44.4
(12) 子どもが寝ているときに突然大声をあげたり、興奮したりして、落ち着かせることができないようなことがある	3	13.0	1	7.1	2	22.2
(13) 寝つきの悪いことがある	10	43.5	5	35.7	5	55.6
(14) 夜驚や悪夢とは関係ない場合でも、夜中に途中で目が覚めてしまうことが多い	5	21.7	3	21.4	2	22.2
(15) 警戒心が強く、用心深い素振りをみせる	5	21.7	4	28.6	1	11.1
(16) 物音や人影に対して、極端に強い驚き方をする	4	17.4	2	14.3	2	22.2
(17) ある時期から、親や保育者と別れることに強い不安を示し、泣き叫ぶようになった	2	8.7	0	0.0	2	22.2
(18) ある時期から、1人でトイレに行くことを怖がるようになった	1	4.3	1	7.1	0	0.0
(19) ある時期から、暗闇を強くこわがるようになった	2	8.7	2	14.3	0	0.0
(20) ある時期から、特別の何か(物や人など)や状況(場所など)を怖がるようになった	2	8.7	0	0.0	2	22.2
(21) 周りのことに気づかず、ポーッとしてしまうことがある	5	21.7	2	14.3	3	33.3
(22) 場面によって、別人のように思えることがある	5	21.7	2	14.3	3	33.3

注) 質問(1) - (5)では各々の症状が遭った場合に付加質問を加えており、それも満たした場合の数や割合を()に記している。虐待の有無による症  
 状の差異について Fisher の直接確率による検討を行った。(\*:  $P < 0.05$ , 無印: 有意差なし)

表 4. 虐待あり群となし群における幼児トラウマ尺度各項目の出現率

	介入(N=8)		対照(N=14)		統計的検定
	事例数	%	事例数	%	
<b>性別</b>					
男	4	50.0	5	35.7	n.s.
女	4	50.0	9	64.3	
<b>年齢</b>					
2歳代	2	25.0	3	21.4	n.s.
3歳代	0	0.0	4	28.6	
4歳代	3	37.5	3	21.4	
5歳代	1	12.5	3	21.4	
6歳代	2	25.0	1	7.1	
<b>養育環境</b>					
虐待あり	6	75.0	5	35.7	n.s.
ネグレクトあり	7	87.5	7	50.0	n.s.
<b>PTSD</b>					
幼児トラウマ尺度得点	1.9	2.1	0.9	1.4	n.s.
<b>アタッチメント障害</b>					
情緒的撤退・内閉	27.0	10.0	22.5	6.9	n.s.
養育者に対する警戒・過剰応諾	17.0	2.8	15.9	5.0	n.s.
無差別的友好態度	13.6	4.1	9.7	2.4	*
危険行動	9.6	2.5	6.0	1.8	**
行動抑制性粘着性愛着	6.1	1.7	6.6	2.2	n.s.
統制的態度	22.8	6.9	17.4	5.7	n.s.
<b>保育士に対するアタッチメントの安定性</b>					
AQSスコア	79.0	12.2	83.1	9.7	n.s.
<b>CBCL(T得点)</b>					
内向得点	54.6	9.5	52.6	6.9	n.s.
外向得点	61.4	11.8	53.3	9.6	n.s.
総得点	61.9	10.7	53.9	7.7	n.s.
ひきこもり	59.1	8.4	58.2	6.2	n.s.
身体的訴え	55.0	8.0	51.4	2.3	n.s.
不安/抑鬱	52.9	5.0	52.9	4.1	n.s.
社会性の障害	62.0	10.7	53.5	3.9	n.s.
思考の問題	59.4	13.9	54.9	8.0	n.s.
注意の問題	60.9	11.3	53.1	6.8	n.s.
非行的行動	62.1	7.8	55.1	5.7	n.s.
攻撃行動	60.8	10.3	55.1	8.1	n.s.

注)統計的検定は、ANOVAによる。+: P<0.10, \*: P<0.05, \*\*: P<0.01, \*\*\*: P<0.001

表 5. 介入群と対照群の背景要因と心理所見

	介入(N=8)				対照(N=14)				統計的検定	
	ブレ		ポスト		ブレ		ポスト			
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差		
PTSD										
幼児トラウマ尺度得点	1.9	2.1	0.9	2.1	0.9	1.4	1.5	2.3	-1.42	n.s.
アタッチメント障害										
情緒的撤退・内閉	27.0	10.0	24.6	7.2	22.5	6.9	21.7	7.2	0.36	n.s.
養育者に対する警戒・過剰応諾	17.0	2.8	18.4	2.9	15.9	5.0	16.9	4.6	-0.80	n.s.
無差別的友好態度	13.6	4.1	11.3	2.9	9.7	2.4	10.1	2.3	-0.41	n.s.
危険行動	9.6	2.5	9.1	3.4	6.0	1.8	5.3	2.5	1.33	n.s.
行動抑制性粘着性	6.1	1.7	4.5	2.0	6.6	2.2	5.3	3.0	1.95	+
愛着										
統制的態度	22.8	6.9	19.8	6.7	17.4	5.7	17.4	7.1	-0.03	n.s.
保育士に対するアタッチメントの安定性										
AQSスコア	79.0	12.2	79.0	9.8	83.1	9.7	82.2	9.2	0.36	n.s.
CBCL(T得点)										
内向得点	54.6	9.5	57.4	6.0	52.6	6.9	54.7	7.9	-0.99	n.s.
外向得点	61.4	11.8	60.9	12.2	53.3	9.6	57.0	11.7	-1.62	n.s.
総得点	61.9	10.7	61.9	10.4	53.9	7.7	55.7	10.8	-0.85	n.s.
ひきこもり	59.1	8.4	60.6	7.0	58.2	6.2	59.7	7.1	-0.73	n.s.
身体的訴え	55.0	8.0	59.1	7.5	51.4	2.3	53.9	5.5	-2.49	*
不安/抑鬱	52.9	5.0	53.6	5.1	52.9	4.1	53.6	4.9	-0.73	n.s.
社会性の障害	62.0	10.7	61.0	9.6	53.5	3.9	55.6	4.8	-1.65	n.s.

思考の問題	59.4	13.9	59.6	14.5	-0.08	n.s.	54.9	8.0	57.0	9.3	-0.98	n.s.
注意の問題	60.9	11.3	62.8	10.6	-0.89	n.s.	53.1	6.8	55.7	8.8	-2.10	+
非行的行動	62.1	7.8	60.8	9.7	0.76	n.s.	55.1	5.7	57.4	6.6	-0.93	n.s.
攻撃行動	60.8	10.3	59.5	9.7	0.47	n.s.	55.1	8.1	58.7	11.4	-1.71	n.s.

注) 統計的検定は、対応のあるT検定による。n.s.: 有意差なし, +: P<0.10, \*: P<0.05, \*\*: P<0.01, \*\*\*: P<0.001

表 6. プログラム前後の変化

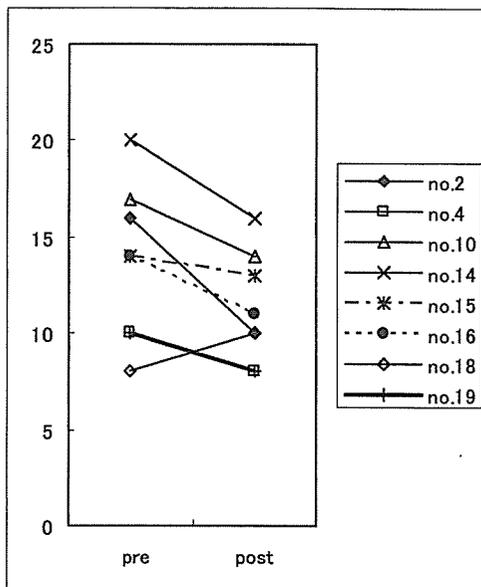


図 13. 介入群の無差別的友好態度得点の推移

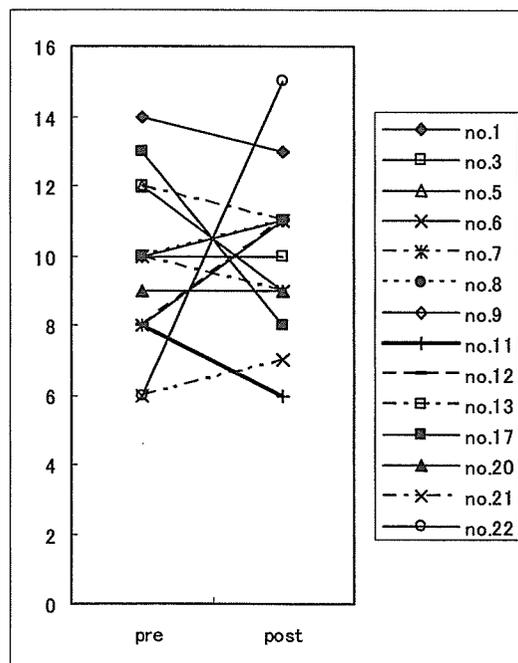


図 14. 対照群の無差別的友好態度得点の推移

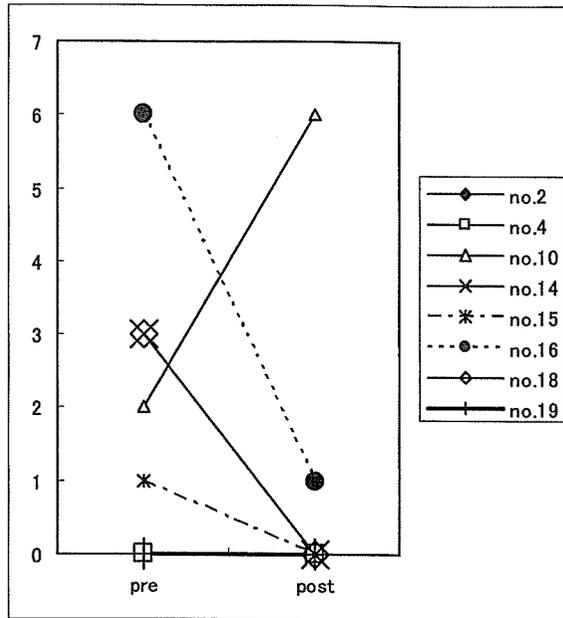


図 15. 介入群の幼児トラウマ尺度得点の推移

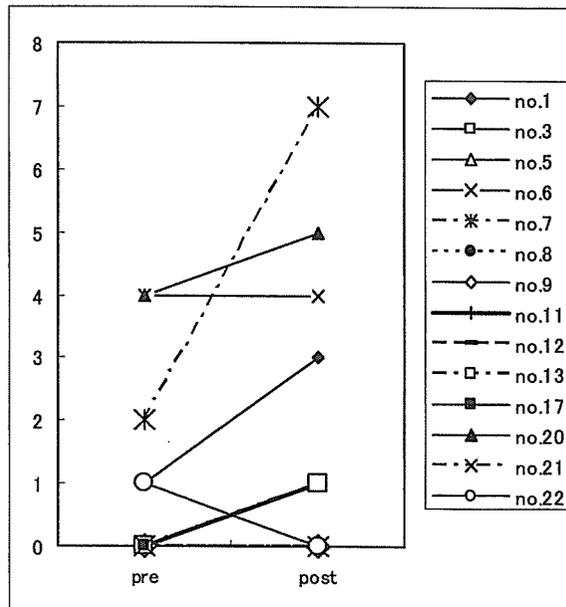


図 16. 対照群の幼児トラウマ反応尺度得点の推移

## 研究成果の刊行に関する一覧表

## 書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
森田展彰	児童福祉ケアの子どもが持つアタッチメントの問題とケア	数井みゆき、遠藤利彦編	アタッチメントと臨床問題	ミネルヴァ書房	東京	2007	(印刷中)
森田展彰	児童虐待	山上皓編集	司法精神医学第3巻犯罪と犯罪者の精神医学, 第6章家族と犯罪	中山書店	東京	2006	pp306-323

## 雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
鈴木志帆, 森田展彰, 白川美也子, 中島聡美, 菊池安希子, 中谷陽二	SIDES (Structured Interview for Disorders of Extreme Stress) 日本語版の標準化,	精神神経学雑誌	109 巻 1 号	9-29	2007
森田展彰	非行・犯罪をトラウマの観点から考える	非行問題	29 号	(印刷中)	2007
Nobuaki Morita, Ichiro Wada	Job stress and mental health of child-counseling office workers	Journal of Occupational Health	49(2)	(in press)	2007
森田展彰, 和田久美子, 林志光, 松崎一葉	トラウマ反応を生じた者の職場復帰に対する援助	日本社会精神医学会雑誌	15 巻 2 号	137-146	2007